

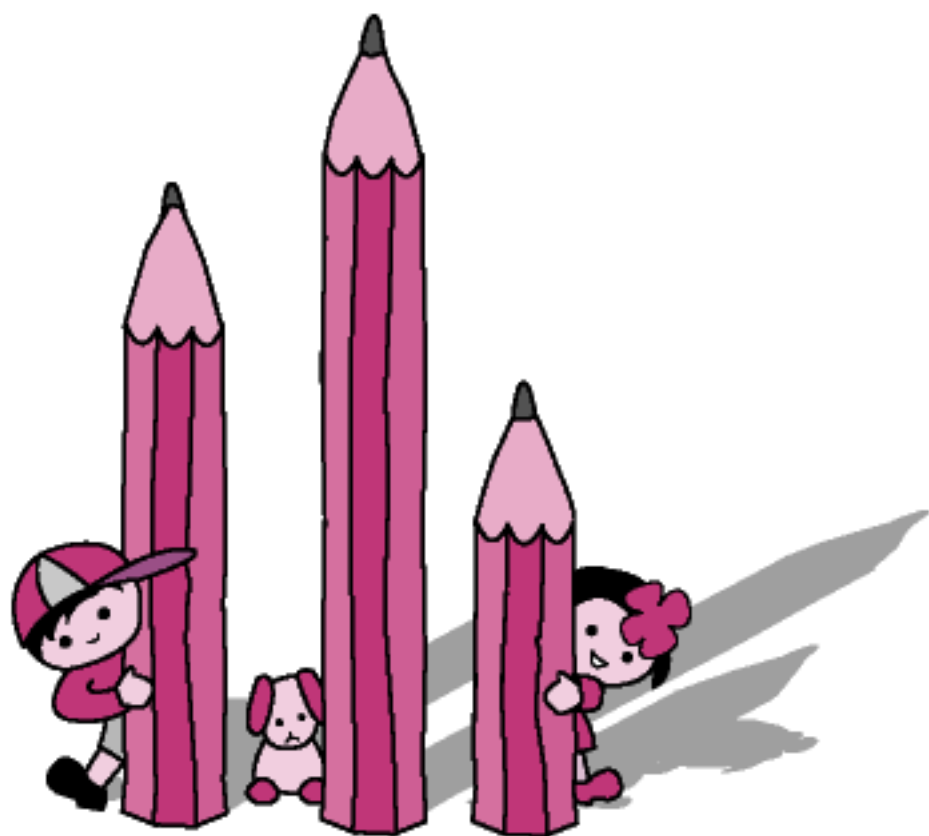
小児病院は希望の光

病院長 中村 肇

戦禍、それに震災、津波と悲劇的な出来事が相次ぐ昨今ですが、いつも最大の被害者は子ども達です。虐待・非行・少年犯罪・人身売買と悲劇的な出来事が世界各地で多発しています。エイズをはじめとする感染症の被害者も子どもたちです。子どもの疾病はグローバル化し、受難した子どもたちが医療機関にやってきます。

あの荒廃したアフガニスタンでも、画面に映し出された小児病院の活躍ぶりは、希望の灯火としてわれわれに安堵感を与えてくれました。小児病院は、国の希望の象徴です。米国をはじめ、多くの国々の小児病院は寄付で運営され、ハード面も、ソフト面も子どもたちに夢と希望を与える工夫がなされています。昨年、訪中の機会があり、上海小児病院に招かれました。そこでは、わが国に劣らぬ先進医療の提供とともに、子どもたちの療養環境においても社会のモデルになり得るための配慮がなされていました。

夢と希望を提供できない小児病院では、その社会が衰退すること必至です。子どもたちが脅かされている問題をもっとも身近に体験しているのが、私たち小児病院の医療者です。私たちは、子どもたちの代弁者として情報を発信し、国境を越えた連携で子どもたちの健康をまもり、子どもたちに夢と希望を与え続ける努力をしていかねばなりません。





膨らむ希望



診療部長 西島栄治

What's new in the hospitals?
診療科とクリニック

私達のこども病院には姉妹病院が2つあります。神戸市の姉妹都市であるアメリカ合衆国のシアトル市の小児病院とオーストラリアのパーズ市の小児病院です。姉妹提携に至った経緯は、当時の小児外科部長であった木村健先生の個人的つながりが発端になったものと記憶しています。それぞれの先生の院長時に、小嶋元院長はパーズ市のプリンセスマーガレット病院に、小川元院長はシアトル市のシアトル小児病院を訪問されました。院長以外にも数名の心臓外科医、外科医、それに泌尿器科医と看護師が訪問して、交流されました。パーズからは使節団の親善訪問を受けましたし、シアトルからは何名かの外科医、泌尿器科医が訪問してくれました。最近はお互いにメンバーも変わっており、現在はほとんど交流がなく、姉妹病院という意識も薄らいでいます。もう一度初心に戻って、北米の港町のシアトル、オーストラリアの港町のパーズなど、兵庫県や神戸市と

の関係も深い、港湾都市の小児病院間で交流を深めるのは意義深いと思われれます。情報はインターネットの時代となって簡単にやりとりできます。しかし、情報が簡単に行き来する時代だからこそ、顔をみて、アイコンタクトのもとに握手し、話しあうという直接の草の根交流が必要です。小児医療に対する互いの思い入れを、声の勢いを感じながら語り合うのは意義深いことです。

中国の上海市にも大きな小児病院が目を見はる勢いで活発に活動しはじめています。中村院長がすでに訪問され、交流が始まりました。中国の港町、上海市の小児病院、それにヨーロッパの港町、ロッテルダム市の小児病院など、世界の港町の小児病院という性格づけでまとまってお互いに姉妹関係になって、定期的に交流できればいいなあ、と思います。国際都市、神戸をかかえる兵庫県にふさわしい国際交流事業になるなあと希望を膨らませています。

No Smoking



こども病院敷地内禁煙のお知らせ



こどもと妊産婦を タバコの害から 守りましょう

衛生委員会 大橋正伸

時折、昼休みの間に職員からボランティアを募って、敷地内のタバコの吸い殻回収をおこなっていますが、見かけられた事はありませんか。

健康増進法(平成15年5月施行)の趣旨に基づいて、こどもと妊産婦をタバコの害から守るために、平成17年1月1日より当院は敷地内禁煙となっております。ご家族、お見舞いの皆様にもどうかご協力をお願いいたします。

「イギリス・ウェールズ地方の栄養事情！」

栄養指導課長 下浦 佳之

Notice
Dietician
栄養指導課案内

今回のテーマは「国際交流」ということですので、約3年前に研修を受けた英国のウェールズ大学医学部(UWCM)や栄養士養成学校(UWIC)での英国の栄養事情や栄養士さんとのふれあい?の様子をちょっぴり紹介させていただきます。

英国はイングランド(そう、あのベッカム様の...)、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4つの王国からなり、私が訪れたのはイングランドの西方に位置しているウェールズでした。英国といえばロンドン、あるいはロンドンを首都とするイングランドのことと思っている人が多い中、イングランド以外のイギリスについて関心を持つ機会を得たことは貴重な体験でした。日本で生活習慣病と言われる様々な疾患に対して関心が高いのは周知の事であるが、ここ英国においても同様であると英国の医師や栄養士より様々なレクチャーを受けたり、実際に生活することで肌で感じる事ができました。しかし関心が高いと聞くにも関わらず、重症な肥満の方々に会う。日本では相撲力士かと思われる体型の方々に男女を問わずお目にかかる。日本人と欧米人のホルモン等の違いもあるのだろうが、食事の違いも大きく関係していると実感させられた。というのも私が研修中、毎朝お世話になった病院内のスタッフ食堂のメニューを

見れば一目瞭然である。そこで目にしたのは、油にどっぶり漬けたハムとベーコン、たっぷりの油で揚げた目玉焼き、油ギトギトのスクランブルエッグ、マッシュルームのソテー、塩っ辛いポークビーンズ、唯一の野菜がトマトの缶詰の水煮だった。このメニューは滞在期間中1品も変わることは無かった。このような内容の朝食はイギリスでは当たり前で、豪華版でもあると栄養士さんから聞く。しかしこのような食事になれていない私は、生野菜など野菜に飢えてきている事に気付くには時間を要しなかった。

(次回につづく...)



●UWCMスタッフ用食堂

お知らせ

小児慢性特定疾患医療給付制度が改正されました！

大きな改正点としては、

- ◆ 対象疾患が見直されました
- ◆ 入院・通院の制限が廃止されました
- ◆ 所得に応じた一部自己負担金が生じます

心臓・腎臓・神経筋疾患に該当する患者さまは、従来1ヶ月以上の入院しか対象となっておりませんでしたが、今後、期間関係なく入院医療に対して対象となり、通院も対象となります。制度に関する詳細は、居住地の保健所または、総合受付内、「質問・相談コーナー」の医療ソーシャルワーカーへお尋ねください。



News
From Administration
Office
医事課ニュース

身の回りにおける放射線

検査・放射線部 北坂 佳之

Memorandum
放射線部門のメモ

みなさんは放射線と聞くとどう思いますか。怖くて恐ろしい、危険で近寄りたくない、と思いませんか。しかし、あまり知られていませんが放射線は私たちが日々生活している自然界にも存在しています。

宇宙は150億年から200億年前にビッグバンが発生して誕生したといわれており、この爆発をきっかけに、放射線が生まれたと考えられています。放射線は人が作り出したものと思われがちですが、実は人間が地球に誕生するずっと前から自然に存在していた物です。

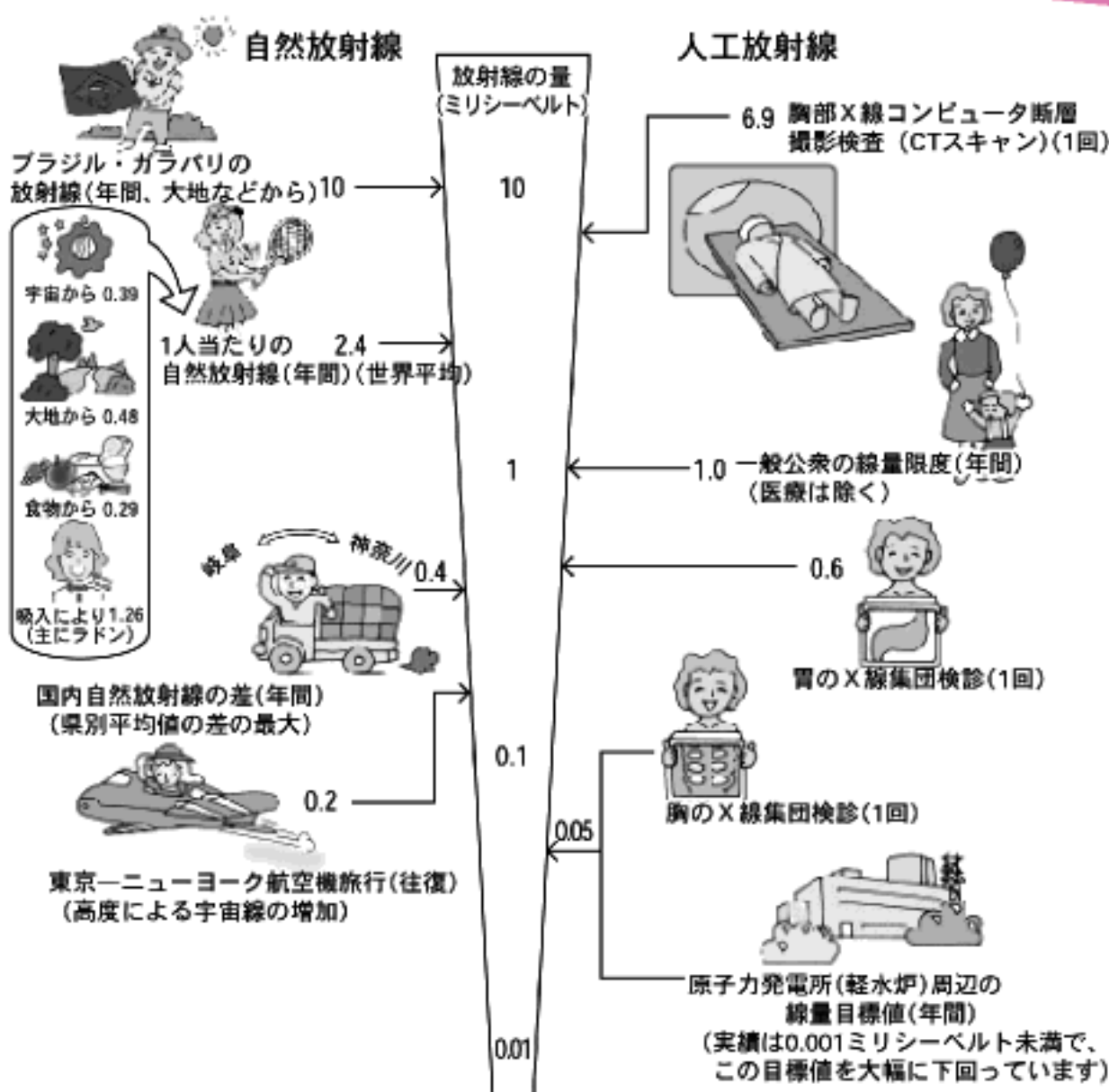
植物は養分として放射性物質であるカリウム-40を吸収し、放射線を出しています。そしてその植物を摂取した動物や人間もまた、放射線を出しているのです。温泉には微量の放射性物質が含まれており、温泉療養などに使われるラドン温泉も、ラドンを含む鉱石がお湯に溶けだしたものです。宇宙から地球に降り注ぐ宇宙線も放射線の一種で、飛行機に乗ると地上よりも宇宙線を多く受けます。また鉱石や大地からも放射線が出ており、住んでいる国や地域によって放射線量も異なります。

日本では自然界から受ける年間の放射線量は2.4mSvほどですが、世界では10mSvのところもあります。ちなみに胸のX線検査は0.1mSv、CT検査は6.0mSvほどです。

このように、自然界には色々な放射線が存在しますが、人体に有害な量ではないので、私達は毎日健康に暮らしていけるのです。

※mSv (ミリシーベルト) : 人体への影響を表す放射線の単位

日常生活と放射線



マスター2階段試験

検査・放射線部 上田 堅恵



ドンドン・ウン・ウン♪ ドンドン・ウン・ウン♪

生理検査室の前を通った時、太鼓の音の様な規則正しい音を聞かれた方も多いと思います。ドタ・ドタ・ドタ・・・と走ってはいけなはずの廊下を「頑張って！」と励ましながら走る姿を見かけた方もいらっしゃると思います。病院でいったい何をしているのでしょうか？

マスター2階段試験は、規定の高さの凸型階段を用いて、年齢、性、体重に応じて決められた回数を一定時間に昇り降りする運動負荷試験法です。運動を行うことにより心臓に負荷を与え、安静時にはとらえきれない心疾患の病態を明らかにしようとする検査法で、不整脈、虚血性心疾患の有無等がわかります。規定の高さの階段ですので、昇り降りが困難な場合は、廊下を走って負荷をかけたりもします。また、転倒を防ぐため、手を添えて検査をする事もあります。

簡便に実施でき、低コストであることからスクリーニング検査になっていますが、一歩間違えれば



事故にもつながりかねません。安静時の心電図をチェックし、運動負荷をしてもいいかどうか確認します。自覚症状が出現した際には直ちに検者に伝えていただくよう説明し、患者様の表情や状態を注意深く観察しながら負荷をかけ、その後、心電図を記録します。日々、細心の注意を払って検査を行っています。

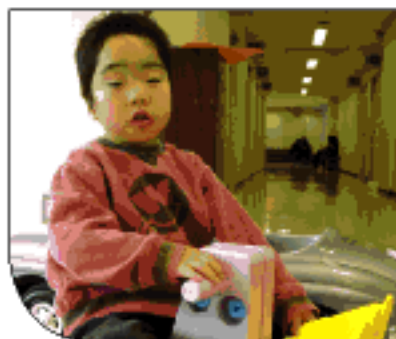
お仕事紹介 その2 「集団指導」

毎週金曜日、発達がゆっくりだったり手助けが必要なお子さまや保護者の方においでいただき、小集団(各40分)で行なう療育事業です。スタッフ一同、喜びや悩みを分けていただきながら、お子さまの成長を保護者の方々と一緒に見守らせていただいています。

ここでは、特定のプログラムはなく、お子さまにはまず場に慣れていただくことから始め、場に入れるようになれば、自由にのびのびと遊んでいただきます。そしてスタッフは、そのお手伝いをさせていただきます。また、お子さまにはどこに手助けが必要なのか、あるいは周りの方にどういう関わり方をしていただいたらよりお子さまが生活しやすくなるのか、といったアドバイスをさせていただきます。

この場を幼稚園・保育所・通園施設などへの集団参加といった、社会参加への一つのステップ、と考えていただければ、とも思っていますので、必要な時には保育所や通園施設などについてのご相談も承っています。また、既に集団参加を経験しておられ

指導相談・
地域医療連携部
保健師 行 祥子



る場合も、保育所での困りごとや就学に向けた悩みなど、お話を伺い、保護者の方と一緒に考えていくことができます。

スタッフは臨床心理士・保健師・ソーシャルワーカーです。

ご希望の場合は、まずは指導相談部のスタッフまで、どうぞお声かけ下さいね。(^ _ ^)

検査部門からのお知らせ

指導相談部門からのお知らせ

Notes from Lab

News of the consultation

血液主体病棟

血液主体病棟は主に血液腫瘍疾患の患者様が入院されています。心身共に厳しい化学療法を少しでも前向きに取り組めるよう、患者様・ご家族・医療スタッフが協力し合っています。

- ・病床数は26床、スタッフは医師3人、看護師26人、保育士2人が配置されています。
- ・お子様の成長発達をご家族と共に見守っていただけるよう、初回入院時から継続受け持ち看護師が担当しています。



- ・患者様、ご家族が共に参加できる看護計画の立案に取り組んでいます。
- ・保育士が乳幼児期のお子様には毎日集団保育を行い、季節ごとの行事を行っています。2月は節分の豆まきをしました。
- ・学童期のお子様はわらび学級に入級され、体調に合わせて学習にはげんでいます。

院外処方せんの発行について

薬剤部長 郷地 啓子

当院では、平成17年2月1日（火）から院外処方せんを発行しており、患者様やご家族の方が保険薬局で早くお薬を受け取っていただくために院外処方せん用Fax機を設置しました。また、外来患者様やご家族の方には「院外処方せんに関するパンフレット」を配布し、院外処方の理解を深めていただくとともに、「かかりつけ薬局」を事前に決めて頂くために、「院外処方せん相談コーナー」を平成17年4月30日まで設置し、様々な相談に対応しております。

発行から約2週間が経過しましたが、患者様によっては、「かかりつけ薬局」がまだお決まりでない方や院外処方せんの理解が得られていない方がおられるため、全ての患者様に院外処方を理解していただくには暫らくの期間が必要と思われまます。

当院の患者様が薬を安全で安心して使用していただけるように、市販薬を含めた全てのお薬の相談が何時でも気軽にできる「かかりつけ薬局」の普及を行い、全ての患者様に喜んで頂ける院外処方となるよう取り組んでいきたいと思ひます。



>About 看護部だより
nursing care

Correspondence
From 薬剤部通信
Pharmacy

2005迎春

子ども達に新春の雰囲気をも！

保育士 大北 理津子



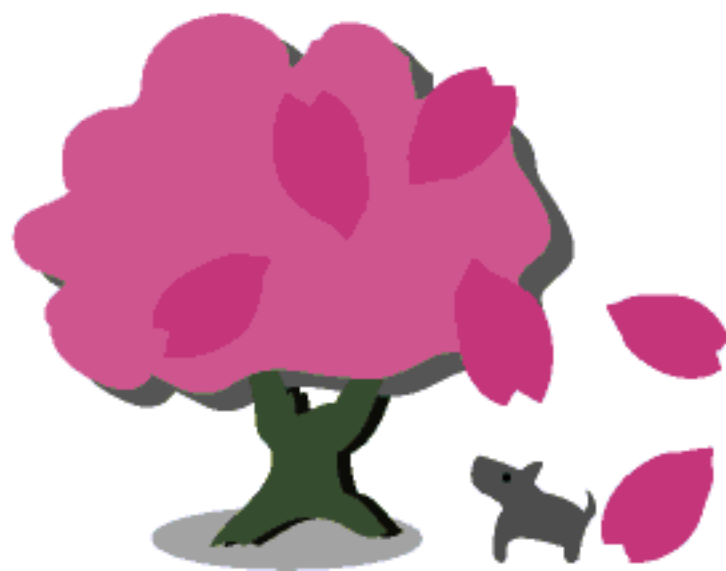
壁には海に浮かぶ富士山に初日の出の絵。部屋には「よっ日本ー!!」という子ども達の声援。1月19日、研修室A Bにて子ども達のためのかくし芸大会「よっ日本ー!!」が行われました。客席には入院中の子どもたち21人とご家族の方々22人が集まってくれました。

まず始めは飛び入り参加者による福笑い。ホワイトボード一面の大きなお多福ができました。続いて箏曲「さくら」と「大きな栗の木の下で」。子ども達は初めて見るお琴に目を丸くし、その音色に聴き入っていました。手品「コップをすり抜ける玉」「増えるウサギの人形」には客席から「おー!!」と驚きの声。何とか仕掛けを見破ろうとしていた人もいます。ピアノ演奏に一発芸カラスの鳴き真似、最後は見開き1m半程もある大型し掛け絵本「はらぺこあおむし」。絵本の中を動くあおむし人形でたっぷりとお話の世界を楽しみ、1時間の会を終了しました。

出演者・スタッフには看護師、ソーシャルワーカー、保育士、そして「当日可能ならば出ます」とかくし芸を準備していた医師もいました。いつもとは違った職員的一面を垣間見て頂けたのではないかと思います。かくし芸大会を行ったのは今年が初めてです。入院中の子どもたちに少しでもお正月の雰囲気や楽しさを届けたい、との思いから行われました。司会者も振袖（なんと着付けは看護長）と今年の干支であるトリの着ぐるみで登場しましたが、いかがでしたでしょうか？これからも患者様とご家族の方々に喜んで頂けるよう、企画を考えていきたいと思っています。楽しみにしてくださいね。



Let's play!
Let's smile!
お正月ー!!





基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

患者権利宣言

- 1.あなたはひとり人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
 - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
 - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
 - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
 - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

編集後記

暖冬といわれながらも、寒い日が続いていますが、体調を崩したりしていませんか。このげんきカエルが皆様のお手元に届く頃は、そろそろ暖かい春の訪れでしょうか。

「げんきカエル」も3年目を迎え、ますます皆様に喜んでいただけるような情報を提供していきたいと思えます。今後、皆様

の声も紙面に取りあげていきたいと思っていますのでよろしくご依頼致します。今季号の担当は、2度目ですが、不慣れな齊藤でした。では、次季号もお楽しみに！

兵庫県立こども病院広報誌編集委員会

大橋正伸 斉藤富美代 正井秀幸 眞浦洋子 村田和歌子 行祥子

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp